

100年後の東北の里山にも馬たちの放牧風景を残すために  
引退競走馬や引退乗馬たちとつくる  
馬の堆肥でウマい野菜の宅配サービス  
「うまeベジ」と循環型社会の構築

企業組合 八幡平地熱活用プロジェクト  
BAFUN(ばふあん)準備室

# ジオファーム八幡平とは



馬×地熱 で馬ふん堆肥の安定生産やマッシュルームを栽培し、馬たちの居場所づくりとサスティナブルな循環を目指している 企業組合八幡平地熱活用プロジェクトの運営する農場



かわて  
八幡平  
馬ふん  
堆肥  
ジオファーム八幡平

すくすく育つ  
野菜 (根菜) パラ (果物) 花木

地熱発酵

かわて八幡平馬ふん堆肥の良さは、八幡平の自然環境と地熱の恵みから生まれる。馬ふん堆肥は、馬の健康と生産性を高めるだけでなく、土壌を豊かにし、作物の成長を助ける。ジオファームでは、馬ふん堆肥を安全に生産・販売し、持続可能な循環を目指しています。

お問い合わせ先  
ジオファーム八幡平 事務局  
〒992-0202 秋田県八幡平市大森 1-1-1  
TEL: 0195-70-2850 FAX: 0195-70-2851  
E-MAIL: info@geo-farm.com http://geo-farm.com

馬ふん堆肥は  
グルグル  
まわります。

馬ふん堆肥は土として使えます。  
スグに植えられます！  
土がふかふかになる！  
やさしく作用する。

馬ふん堆肥は、馬の健康と生産性を高めるだけでなく、土壌を豊かにし、作物の成長を助ける。ジオファームでは、馬ふん堆肥を安全に生産・販売し、持続可能な循環を目指しています。



# なぜ、マッシュルームなのか！？ = 馬がベース！マッシュルーム培地づくりの流れ

マッシュルームの人工栽培は17世紀中頃にフランスで始まり、主にパリ地方近郊の採石場跡で、馬厩肥をベースに栽培されていたことから、シャンピニオンデパリと呼ばれる。このため、伝統的なマッシュルーム栽培のための原材料は馬厩肥(稲わら、麦わら、馬ふん)・鶏ふん・石膏となっている

培地づくりの流れ  
(2016年実証栽培)

盛岡競馬場から馬厩肥を確保(一部ワラ原料の増加のために、稲わらロール2本別途確保) 地熱活用型堆肥舎にて、鶏ふん、石膏を水で溶かしながら、馬厩肥全体に混ぜるよう拡販、その後、1日毎に、全体を切り返し拡販、14日後に、堆積の高さを低くして、2次発酵を1週間、その後、蒸気ボイラーにて殺菌したハウスへ床詰めして植菌→ 培養 2週間→ ショック後 1週間で発生



馬厩肥の確保



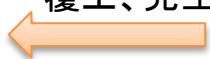
堆肥舎にて原料の拡販



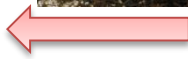
堆肥化



覆土、発生



植菌、培養



床詰め

# ジオファームが目指す2つの地域資源活用による展開

ジオファームが目指すビジネスモデルは、地熱活用での農作物の安定生産、だけでは無く馬が関わる新たな産業の仕組みを作り上げる事  
 地熱×馬は、馬を一次産業のステージで昔のように活躍させることが目標 ← これを伝えるツールを地熱活用で、安定生産

馬ふん堆肥がベースとなり、農家さんとの連携して、ダイレクトマーケティングを構築し、ファンクラブを形成

八幡平に馬がいる風景をみんなで共有 → 馬がいる風景を守る + 観光業との連携

みんなで地域産業を守る = 環境を守る

◎ 引退競走馬や養老馬のセカンドキャリア構築のための場所づくりにも。



馬搬材



馬ふん オーガニック



放牧景観



南部駒



グローバルな展開へ

強みは、2つの地域資源で  
 他の地域との差別化

インバウンド対策や地方創生の要にもなるよう、地域内の連携強化で魅力を高める  
 ↓

競うべき相手はどこなのか  
 近隣の地域なのか、近隣の県なのか 近隣諸国なのか

観光立国としては近隣諸国 海外から見ればあくまで日本・JAPAN

生産性だけの追求 → × 持続可能な付加価値 → ◎  
 生物多様性 エシカル 循環型社会 サステイナブル 農業観光

# ジオファームの目指すもの→ 競馬産業や乗馬産業以外で、新たな馬が関わる産業の創出

『馬ふんと地熱でつくっています』

この二つの地域資源を活用することで、地熱活用による地域産業の活性化を目指し、持続可能な社会の構築とともに、この地域に馬がいる里山の景観を維持していくことを目標としています。この取り組みを多くの方に知って頂くためにも、より美味しいマッシュルームをつくり、そして、特に鮮度的にも有利な地元で、是非とも使って頂きたいと思います！

歴史的背景のある岩手競馬の魅力

岩手県央～県北地域は、馬産地岩手という歴史的背景と共に、最近では地層学的にも1000年以上続く草原が多いことが注目されています。今後のJRAの開発展開の方向性としては中央集中型、他の地方競馬においても、ギャンブル・エンターテイメント要素を効率化するために、馬券のネット販売重視の無観客開催の構想も登場しているなかで、岩手は、歴史的な背景から差別化できる強みがあります。

馬と人との関係を持続可能なものにするためには・・・ 馬由来資源を活用し、消費されるものの商品開発と市場開拓



盛岡競馬場から馬厩肥を確保



馬の堆肥で、マッシュルームや、野菜を作る



マッシュルームは、多くの方が知っているものの、なかなか新鮮なものを食べる機会がない食材で、本物の、その美味しさには驚かれることが多い食材です！

馬房から排出される馬厩肥を活用した有機野菜の生産

マッシュルームを栽培した後の廃菌床を堆肥化し、また地域の農家さんとも連携して稲作や野菜作りを進めると、地域資源を活用した野菜の確保や、また敷き藁の確保へつながります。



馬房の敷き藁には、八幡平や盛岡近郊で生産されたお米の、稲わらが使われています。ウまいお米ともつながりがあるのです！

生じた収益を引退競走馬の為の環境整備と馬事文化の振興へ



◎ 競馬場の芝コースにも！！

菌床のベースがイネ科なので堆肥化後、芝生との相性が良い



# 馬たちの現状と課題解決のためのスキーム

・馬産地 岩手 & 東北地方に残る馬との繋がり  
・終戦直後でも、100万頭の馬(うち東北地区には30万頭)  
源平合戦の時代はもとより、戦国武将 伊達政宗も馬匹改良に精を出し、海外からも積極的に良馬を導入し、馬産振興を進めた

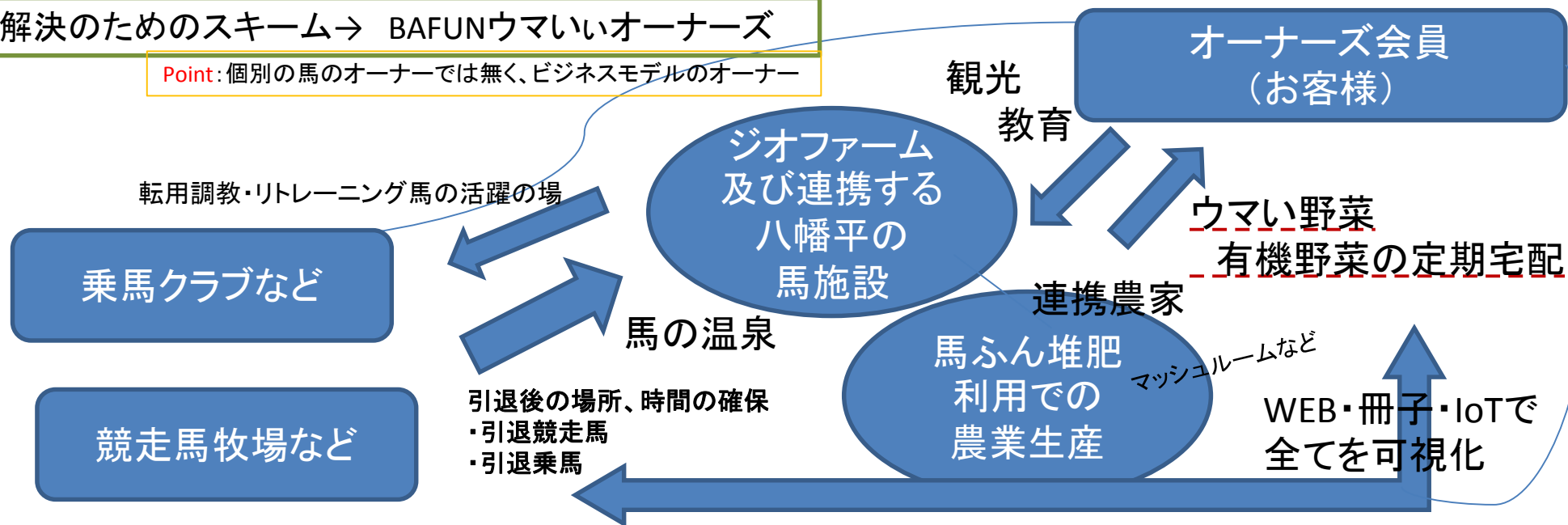
平成29年発表の馬の飼育頭数の統計では、平成27年度の時点で約6万9千頭  
平成15年度では、約10万頭の飼育頭数があったものの年々減少し、ここ数年の減少頭数は非常に激しいものがある  
これは、馬肉ブームの高まりとともに、飼育農家の高齢化に伴い、引退時に売却される例が多く、飼育頭数の減少に一層の拍車をかけている。これらの影響により、地域の馬事文化も消失

## 現状の課題

- 飼育頭数の減少と人材不足、文化伝承の途絶え  
地域の伝統的なお祭り等への、馬不足・人材不足  
子供たちなど、次世代にとって馴染みの薄い存在  
耕作放棄地の増加、馬のいる風景の減少、消失  
アニマルウェルフェアの観点から、飼育環境の見直し

## 解決のためのスキーム→ BAFUNウマいいオーナーズ

Point: 個別の馬のオーナーではなく、ビジネスモデルのオーナー



# 地域での連携強化 & より一層の馬と一次産業・観光への発展

H29年度農村漁村振興振興交付金  
農泊推進対策事業のでの採択

地域 教育施設

地域 観光・宿泊施設

「松尾地区農泊推進協議会」  
(ハード整備の必要性)

BAFUNウマいいオーナーズ

Point: 個別の馬のオーナーではなく、ビジネス  
モデルのオーナー

転用調教・リトレーニング馬の活躍の場

乗馬クラブなど

競走馬牧場など

ジオファーム  
及び連携する  
八幡平の  
馬施設

馬の温泉

引退後の場所、時間の確保  
・引退競走馬  
・引退乗馬

観光  
教育

オーナーズ会員  
(お客様)

ウマイ野菜  
有機野菜の定期宅配

連携農家  
馬ふん堆肥  
利用での  
農生産

マッシュルームなど

WEB・冊子・IoTで  
全てを可視化

地域 福祉・CCRC施設

地域 農業者

# 人も、馬も 安心して暮らせる仕組みづくり



馬にも 人にも  
気持ちの良い

持続可能な 仕組みのために



+ 競技での活躍も  
目指しています！！